



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



大会ボランティアの活動とは？

活動分野・内容

大会ボランティアは、競技が行われる会場や選手的生活ベースとなる選手村、その他大会関連施設等で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に直接携わる活動を行います。

- 人数は目安で、大会運営の準備状況等により変更となる可能性があります。
- 活動分野は複数の活動が組み合わさった記述です。そのうち一部の活動を行います。



競技

競技会場や練習会場で競技運営等のサポートを行います。競技に必要な備品の管理を手伝うまたは、競技会場で競技の運営そのものに関わるなど、場所や競技によって活動は多岐にわたります。

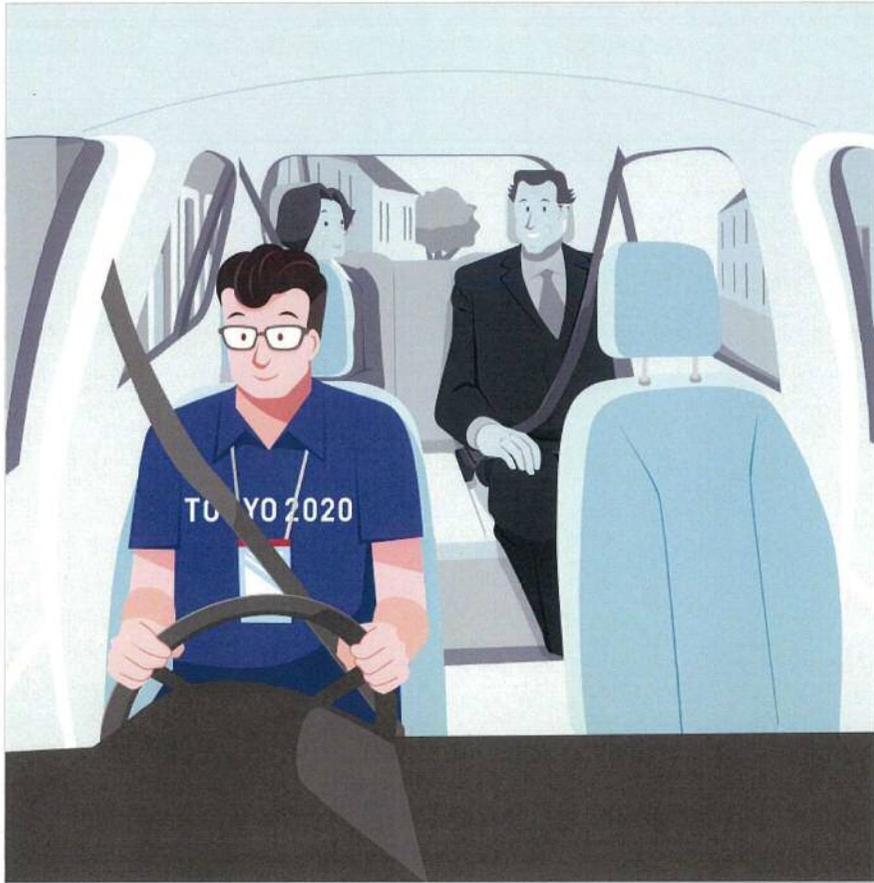
人数の目安：15,000~17,000人



移動サポート（運転等）

大会関係者が会場間を移動する際に車を運転し、快適な移動となるようサポートをします。自動車の運転を行うために普通自動車運転免許が必要です。

人数の目安：10,000~14,000人



アテンド

海外要人等が快適に日本で生活できるよう、空港や会場等様々な場所で接遇を行います。また、選手が快適な競技生活を送ることができるよう、外国語でのコミュニケーションサポート等を行います。これら以外にも競技を終えた選手がメディアからインタビューを受ける際に、外国語でのコミュニケーションサポート等も行います。

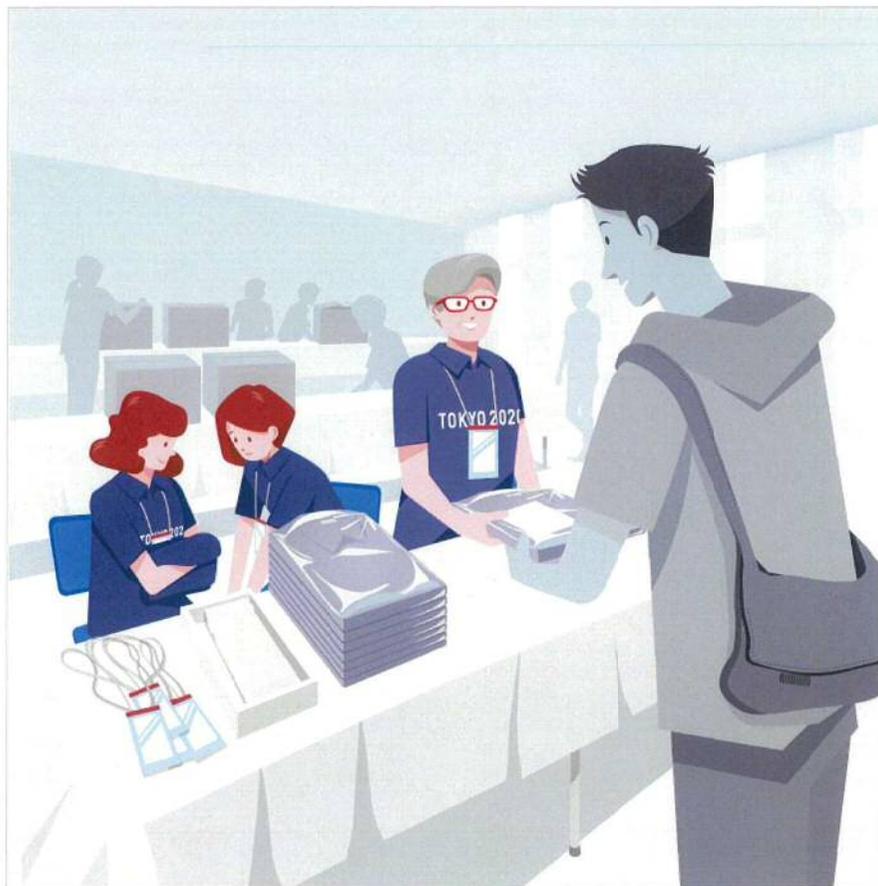
人数の目安：8,000～12,000人



運営サポート

競技会場、選手村、車両運行等の様々な運営サポートを行います。例えば、配付施設でのスタッフ（ボランティア等）のユニフォーム配付や、大会関係者が保有するIDの発行、スタッフが日々の活動を開始する際の「チェックイン」受付等を行います。その他、選手村やメディアセンターにおいて、物品を貸し出すなど、活動の内容や場所は多岐に渡ります。

人数の目安：8,000～10,000人



ヘルスケア

選手にけが人が出た場合、医務室への搬送サポートを行います。「ファーストレスポンドー」は応急手当セットを所持して2人1組で会場内を巡回します。また、ドーピング検査のサポートは、対象選手への告知、検査室への誘導や受付を行います。（検体採取は有資格者が行います）

人数の目安：4,000～6,000人



テクノロジー

大会関係者等に向けて、通信機器等の貸出しや回収等のサポートを行います。また、競技会場内の競技が行われている場所で、競技結果の入力や表示を行います。

人数の目安：2,000～4,000人